豊　中　市

千里文化センター「コラボ」
～新しいセクションの誕生と協働の取組～

新しいセクションの誕生

平成20年２月、千里中央地区に千里文化センター「コラボ」（鉄筋コンクリート４階建て、延床面積9394㎡）が新たにオープンしました。千里中央地区再整備事業の一環として建設されたこの施設は、旧千里文化センター（公民館・図書館・老人福祉センター）と近辺にあった市役所出張所、保健師駐在所（現保健センター）を一体化した複合施設です。

コラボ全景

コラボは、これまであった５施設に、新しいセクションである市民生活部千里文化センター（建物名と同じ、以下「センター」）を加えた６つのセクションで構成されています。

コラボの一元的な管理運営を担うセンターが開館と同時に生まれたきっかけは、市民からの提言でした。

市民の発想で生まれた「コラボ」

新しい文化センターの整備に当たって、「図書館・公民館のあり方を市民の参加と協働で構築しよう」という趣旨のもと、平成17年９月に豊中市新千里図書館・公民館創造会議（以下「創造会議」）が設置されました。創造会議では図書館・公民館のあり方にとどまらず、「広場機能をもつ多目的スペースをつくる」「屋上庭園をつくって開放する」「センター長を設置する」など文化センター全般にわたる提言が出されました。当初の構想にはないことでしたが、参加者の熱い思いが原動力となり、提言内容の大半が実現しました。まさに市民の発想からコラボはスタートしたと言えます。センターの誕生もその一つでした。

センターの主要な仕事は、コラボの多様な機能をうまくコーディネートし、施設利用の利便性や地域の活力を向上させていくこと。これまで本市にはなかった性格をもつセクションなので、具体的な業務を創りだしていくことが求められています。

現在行っている業務は、「施設の総合管理」「施設間コーディネート」そして「市民と行政、市民と市民の協働事業」。設立の経緯からも分かるように、コラボ最大のミッションは協働事業にあります。今回はその一部をご紹介いたします。

協働の取組「その１」市民運営会議

平成20年７月、今後のコラボのあり方を協議する組織として「千里文化センター市民運営会議」（以下「運営会議」）を立ち上げました。公募市民９人、学識経験者３人、コラボ内施設の長５人で構成されています。

運営会議の特徴は３点あります。

１点め、市民委員は全員、19人の応募者から選考された公募委員です。団体代表として依頼した委員はいませんが、日常的に市民活動をしたり、ＮＰＯに所属する方が参画され、このネットワークが後々の活動に役立っています。

２点め、運営会議の初期はワークショップを中心に実施しました。はじめは堅い雰囲気の施設長も、

◆三者の関係

		市	実行委員会	運営会議
①事業の方向性を決める		事務局を担う		会議で検討
②事業実施計画の作成		分科会、全体会議に出席して検討に加わる	分科会で検討し、全体会議で決定する	実行委員会から運営会議の場で報告があり、意見をいうことができる
③事業の実施		予算の範囲内で経費の負担 場の提供	担い手となる サポーターを募集する	
・②と③に関して		必要な情報の収集及び提供 庁内の関係部局への連絡と意見調整		
④事業評価		年度末に評価基準に基づき総括し、公表する		
⑤会議への参加	運営会議	○ 事務局として参加	○ 定期的（3ヶ月に1度）参加	○
	実行委員会全体会議	○	○	
	実行委員会分科会	○	○	

次第にグループワークで発言するようになりました。市民と行政職員が同じテーブルに着いて話し合うまたとない機会になっています。

３点め、運営会議はコラボの今後のあり方（方向性）の議論だけでなく、事業の担い手として参画することも念頭においています。後ほど紹介するプレ事業は、委員が企画・運営にあたっています。

昨年度の運営会議で、コラボの一画に設置する「コラボひろば」と「屋上庭園」の運営のあり方について議論し、創造会議でも提言された「コラボひろば」では総合案内・相談・情報受発信・交流事業を、「屋上庭園」では緑化事業や緑の維持管理、イベントなどを実施することになりました。どちらも市民と行政が協働で運営を担います。

現在は、来年度の本格事業実施にむけ、「情報部会」「イベント部会」「屋上部会」「交流部会」に分かれ、「千里写真展」「鉄道カフェ」「哲学カフェ」「屋上緑化フォーラム」などのプレ事業を実施しています。

運営会議
ワークショップ

イベント風景

協働の取組「その２」実行委員会

運営会議で導き出された方向性に基づき、「コラボひろば及び屋上庭園事業実行委員会」（以下「実行委員会」）を立ち上げました。来年度から開始する事業の実際の担い手集団です。５人程度を公募したところ15人の応募がありました。せっかく「思い」を持って応募していただいたので、全員に参画いただくことになりました。運営会議から推薦された４人とあわせて19人が実行委員会のメンバーです。

運営会議、実行委員会、市の三者の関係は別表のとおりで、それぞれが事業の企画立案・実施・評価に関わります。今年度は計画立案とプレ事業の運営を協働実施します。

来年度から本格稼働

創造会議の提言を経て、運営会議でもさまざまな検討がなされ、変遷をたどり現在の協働の形になりました。今後も修正すべきことが出てくると思います。と同時に、協働は手段であって目的ではないことも心にとめなければなりません。

開館して２年弱、センターではコラボを「はじめての事」にチャレンジする実験場だと考えています。私たちはこれを「コラボモデル」と名付けて、試行錯誤を繰り返しながら、本市のリーディングケースとなるよう、少しずつ道を開いていきたいと思います。